

多摩川の生物

質問事項	回答
<p>多摩川の上流～下流に住んでいる魚たちは、水温に関係ありますか？</p>	<p>魚類が生きていくための環境は、それぞれ異なってきます。例えば、スズキやマハゼなどの魚は、汽水域と呼ばれる淡水と海水が混ざる水域を好みます。また、非常にきれいな水質を好む魚もいれば、コイなどのように多少の汚れでも生息できる種類の魚もいます。水温についても水温の低いものを好む魚類もいます。一般的に水温の低い上流部で確認されている「ヤマメ」は、真夏でも水温が20℃を越えることがないようなところに生息する魚です。</p>
<p>魚が食べる食べ物はどのような物があるのですか。また、魚のエサはどの辺りに沢山あるのですか。</p>	<p>ミミズ・水生昆虫、エビ・カニ・コケ等などがあります。それらは、川岸・浅瀬・ワンド・川底などにいます。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)</p>
<p>多摩川で鮎の餌釣りしたいと考えていますが、水温が高くなると鮎の常食とする「コケ」が死滅し、餌にも鮎が反応すると聞きました。多摩川で水温がいちばん上昇する時期を教えてください？</p>	<p>場所、天候、流量等の条件により日々異なると思われ、一概に時期は言えません。数日間降雨がなく、猛暑が続いた日は当然、水温が高いと考えられます。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)</p>
<p>多摩川にはどれだけの植物がありますか？</p>	<p>多摩川は河口から約54kmの所に羽村堰がありそのすぐ上流から堤防が始まります。堤防に挟まれた区域は、水が流れている場所、護岸などの構造物、砂礫の植物が生えていない場所、植物が生えている場所に区分されます。水が流れている場所を除いた河川敷の約8割に植物が生えており、この区間の河川敷では1999年の調査では132科811種(浅川支流を含む)植物が確認されています。そのうち樹林は9.7%、草原は90.3%となっています。また、樹林の種類はハリエンジュ(ニセアカシヤ)が最も多く、次いでオニグルミ、イヌコリヤナギなどの林が多くなっています。一方、草原ではオギの草原が最も多く、チガヤーススキなどの草原が次いでいます。又近年ではオオブタクサやアレチウリなどの帰化植物が多くなっていることも大きな特徴です。 (回答:植物生態学者佐々木寧先生に相談し作成)</p>